



1



2



3

豊橋市美術博物館友の会だより
 -2016年-春号 Vol.94
 FU風伯HAKU
 Spring 2016



4



5

- ① ジオラマ「Hoisting the flag over the beach」 嘉瀬 翔 2014年
- ② 1/12? ワールドファイターシリーズ 1993~96年 ©BIRD STUDIO FineMolds
- ③ 1/12 Honda NSR500 '84 2012年
- ④ 1/500 愛知県庁 本庁舎 2012年
- ⑤ 1/32 デ・ハビランド モスキート FB Mk. VI 2015年

※①③⑤はタミヤ製、②④はファインモールド製

展覧会紹介

模型の魅力展—タミヤとファインモールド—

2016年2月20日(土) - 3月27日(日) 1階展示室

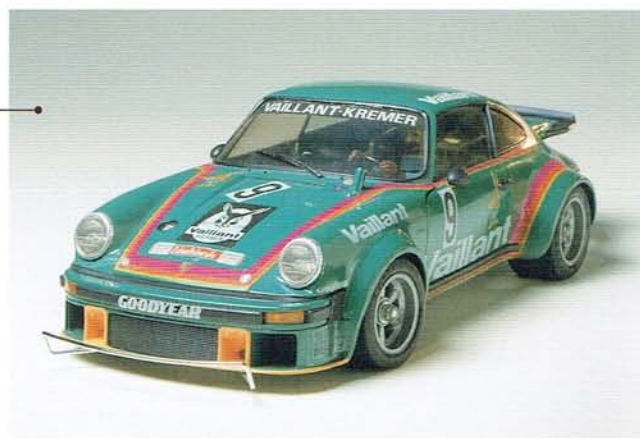
毎週月曜日休館 ※ただし3月21日(祝)は開館し、翌日休館

(株)タミヤは、木製模型を手掛けたのち、昭和30年代半ばより再現性にこだわったプラモデルを次々と発表し、模型ファンに支持されてきました。また、ミニ四駆などを生み出し、動く模型の楽しさを伝え続けています。一方、豊橋の模型メーカー(有)ファインモールドは、その綿

密な調査と資料収集に基づいた、こだわりの製品づくりが評価されています。本展では、(株)タミヤの木製模型、プラモデル、ミニ四駆など、および(有)ファインモールドのプラモデルや開発資料、ボックスアート(パッケージ原画)などを展示し、模型文化の魅力を紹介します。

1/12 RC ポルシェ ターボ RSR 934レーシング (1976年、タミヤ)

タミヤの電動ラジオコントロール(RC)カー第1号は、1976年に発売された「1/12 ポルシェ ターボ RSR 934レーシング」です。もともとなったのは、同年発売のプラモデル「1/12 ポルシェ 934 ターボ」で、設計時、同車のベースとなったポルシェ 911の実車を購入し、実際に分解して構造を調べたという話が残っています。精巧なモデルそのままに走るという、画期的なキットになっています。



1/12? ワールドファイターシリーズ (1993~96年、ファインモールド) ©BIRD STUDIO FineMolds

1993年に始まった「ワールドファイターシリーズ」は、漫画家の鳥山明さんがデザインしたキャラクターをプラモデルにしています。ドイツ、アメリカ、日本、ソヴィエトと、世界の兵士がモデルになっています。鳥山さんらしさをうかがわせるデフォルメされた人形でありながら、銃やヘルメット、水筒などの装備品については実物を詳細に再現しており、新しいコンセプトに基づいたシリーズとなっています。今回の展示では、パッケージの原画もご紹介します。



◆子ども工作教室

●スイーツデコレーションを作ろう

日時：3/5(土) 午前10時~10時30分・午前10時30分~11時・午前11時15分~11時45分・午後1時~1時30分・午後1時30分~2時・午後2時15分~2時45分・午後2時45分~3時15分・午後3時30分~午後4時・午後4時~4時30分

定員：各6名(先着順)
参加費：500円

●ミニ四駆を作ろう

日時：3/6(日) 午前10時~11時30分・午後1時~2時30分・午後3時~4時30分

定員：各20名(先着順)
参加費：972円

◆ラジオコントロールカー 操縦体験

日時：3/26(土) 午前9時30分~午後4時30分(先着順)
会場：豊橋市美術博物館前広場(雨天時変更)
参加費：無料

◆ミニ四駆サーキット

内容：会場内に常設したサーキットでミニ四駆を走らせることができます。(会場を他の催しなどで使用中はご利用いただけません)
参加費：無料

大般若経展

—石巻神社所蔵『大般若経』と地域の人々—

3月1日(火)～3月27日(日)

■会場／美術博物館2階(第2・3展示室)
観覧無料

■休館日／毎週月曜日 ※3月21日(祝)は開館し、翌日休館

石巻神社から当館に寄託されている大般若経600巻は、中世の地域社会を考える上で大変意義深い資料です。室町時代に豊橋市内遠州灘に沿った細谷の八王子社で作成され、戦国時代に石巻神社にもたらされました。愛知県立大学中世史研究会・愛知大学地域史研究会などの皆さんが数年にわたって行った調査は、今ま

■講演会 *敬称略

- ①3月13日(日)午後1時30分から
テーマ「石巻神社所蔵『大般若経』の魅力」
※地域資料としての大般若経とその分析
上川通夫(愛知県立大学教授)
服部光真(元興寺文化財研究所研究員)
山下智也(愛知大学大学院博士課程)
羽柴亜弥(愛知大学大学院博士課程)

■ギャラリートーク(当館学芸員)

3月5日(土)・26日(土)午後1時30分から

二川宿本陣まつり「ひなまつり」

3月13日(日)まで開催中

■会場／二川宿本陣資料館
■休館日／毎週月曜日

3月3日のひな祭りは、古くは上巳の節句や桃の節句と呼ばれ、中国より伝わった邪気を祓う行事でした。江戸時代になって、女兒の初節句と成長を祝う日として、雛人形を飾るひな祭りになりました。

豊橋市二川宿本陣資料館では、今年も「二川宿本陣まつり ひなまつり」を開催いたしております。江戸時代の建物である本陣の中に、昭和30年代まで見られた御殿飾りや豪華な七段飾り、男の子のために飾られた天神様や雛人形と共に飾られた市松人形などさまざまな雛飾りが、数多く飾られています。また、昨年よりもさらに数



大般若経 巻263 室町時代 石巻神社蔵

で不充分であった奥書の翻刻だけでなく、筆跡の分析にも力が入られました。それにより、経巻成立の過程や中心になって活動した僧の存在、写経した人々の多様性についても明らかになってきています。また、あわせてこの地域に残されている大般若経を展示し、当時の社会状況を考えます。

(美術博物館学芸員 増山真一郎)

- ②3月20日(日)午後1時30分から
テーマ「石巻神社所蔵『大般若経』の周辺」
※中世～近世の東三河の歴史と大般若経
山田邦明(愛知大学教授)
田中博久(中部大学大学院博士前期課程修了)
鶴田知大(豊橋市美術博物館)



を増したつるし飾りもご覧いただけます。地元ボランティアが創意工夫された「貝合わせ」と「文字遊び」というテーマのつるし飾りもございます。企画展示室では、ひなまつりをテーマとした浮世絵やひな祭りに飾られた土人形、かわいい大名行列の人形も展示しています。ご家族やご友人とご覧いただければ幸いです。暦の上では春ですが、2月の本陣はととても冷え込みます。温かい服装でご来館ください。

(二川宿本陣資料館学芸員 早野祐美子)

特別企画

日本画家・鈴木一正先生をお迎えして

平成27年12月3日 三の丸会館にて

風伯編集委員みなが鈴木一正先生のお作に感動し、是非インタビューをお願いしたところ、本日の運びとなりました。お忙しい中、ありがとうございます、早速始めさせていただきます。

Q・鈴木先生の絵から動物の生命力を感じます。どのように描かれていますか。

A・僕の場合、動物そのものを描くというより自画像ですね。いつも見ている動物でも、ある瞬間、パシッとくるときがあり、自分の気持ちによって見え方が違うのかな、と。動物と向き合いながら、自分の気持ち、内面を描いていけたらと思っています。

動物の毛並みを描けば生きていることを表現できます。一本一本の毛を描くのは簡単です。でも、毛を描かずに毛並みの柔らかさ温かさを表現したいと思っています。



《悠悠》2010年 第42回日展

Q・先生のつけたタイトルは詩的で、想像力が刺激されますね。会場にはいろいろな種類の筆や刷毛が展示されていましたが、どのように使うのですか。

A・下地の空間はいずれ消えていく色です。たとえばカバの場合、足の接地面や周りを想像しながら、茶色、草の緑、水の色などを塗っていきながら、奥行きを作っていく。そうすることで、生命力、存在感を出そうと思っています。出来上がりはクリーム色でも、最初からただクリーム色だけ塗るのとは、見る角度によっては違う奥行きが出ると思います。

背景だけでなく、生き物にも下地があります。ハゲコウ(《罅》参照)の場合はこれです。



《浮惚》2014年 改組第1回日展

実は、カバのような大きくて毛のない動物のほうが質感の表現が難しいのです。

Q・展覧会場では、カバの絵のそばに下絵がたくさん展示してありました。制作過程を教えてください。

A・いくつものデッサンの中から、小下図を何枚か描きます。動物の色あい、全体の雰囲気、空間の空き具合などをしながら構図を決めていきます。

日本画の場合は空間、余白を大切にします。余白に、自分の内面とか気持ちを表現するのです。動物の周りにはあるはずの草とか水とかを描かないことで、見る人には自由に想像し感じとってほしい、人によって違う景色が見えてもいいと思っています。タイトルも、あまり具体的に書かないようにしています。



《罅》下塗り / 《罅》2011年 京都日本画家協会展

こうすることで下地が完全に消えるのではなく、ふわっと見え、深みが出ます。

完成図をイメージして、そこへ向かって描いていくのですが、途中の下地を重ね塗りしているときは、実は楽しくな

いんですね。同じ作業の繰り返しで。気持ちを奮い立たせながら描いていて、だんだん完成に近づくと、のめりこむ。気をつけていることは、毛と目は最後まで描きません。毛はごまかせるし、目を入れてしまうと完成形になってしまう。目は、はっきり描きこまないようにしています。

Q・人から絵を頼まれることもあるのでは？

A・依頼をいただく場合、モチーフの指定はしないでくださいとお願いします。「うちのペットを」と言われることもありますが（笑）、描きたいものを描かないと気持ちが乗らない。作品は子どもと同じ、愛情をもって描きたいのです。

流れ作業にならないよう、毎回、悩みながら試行錯誤しながら、新たな気持ちで取り組むようにしています。同じモチーフでも前に描いた作品は見ない、別の作品、と意識しています。



Q・先生は絵画教室を開いておられます。子どもさんたちには、どんな絵を描いてほしいですか。

A・子どもの絵って、色や形が大人からはヘンに見えても、子どもにはそう見えているのです。それを否定しないで、のびのびと描かせるようにしています。どんな色を使っても、どう描いてもいいよ、と。

ただ、学年に応じての指導はしていきます。

Q・昔の子と今の子で違いはありますか？

A・それは痛感しますね。今の子は自由に描くことが苦手です。学校でも既成の教材頼みですし、マニュアルがないと描けないのです。

動物園の写生コンクールにも応募するのですが、それぞれ好きな動物を描かせています。絵が苦手、と思いこんでいた子がコンクールに入賞すると、次の日からガラッと変わります。

Q・それは、うれしいことですね。子どもを伸ばすため、注意すべきことは？

A・お母さん方には、子どもの絵は必ずほめてあげてくださいと、お願いしています。子どもが傷つく言葉は「これ何を描いているの?」。これは絶対、聞いてはいけません。「イヌかな、ネコかな」でもいいのです。ほめて育ててください。



《共に》2012年 さんさん展（高島屋）

Q・大作の《共に》から、暖かさ、希望を感じますが、東日本大震災を受けて描かれたとか。

A・震災後、いろいろな分野のアーティストが作品を発表しましたが、僕も自分なりのテーマで表現したいと思って描きました。

実際にはありえない組み合わせだし、サイズのにも違うんですけどね（笑）

Q・最後に、今の思いを一言お願いします。

A・僕は、これからも動物を描き続け、より良い作品を生み出していけたらと思います。

豊橋は、展覧会では日本画の人気の高い。ただ、描く人が少ないのです。もっと多くの方に気楽に日本画を描いていただきたいと願っています。

長時間にわたりインタビューにお答えいただき、ありがとうございました。鈴木一正先生の益々のご活躍を祈念して、終了させていただきます。（風伯編集部）

鈴木一正先生・プロフィール

1964 愛知県豊橋生まれ
1982 愛知県立豊橋豊丘高等学校卒業
1986 京都芸術短期大学日本画専攻科卒業
日展、日春展、豊島社展などに出品。数多くの賞を受賞。
現在・豊島社会員、日展会友、彩楽会主宰



作品画像提供：ギャラリーサンセリテ

会員の声

地元野田弘志

水谷好克 (747)

神戸市東灘区の小磯記念美術館で昨年11月14日から本年1月31日まで野田弘志展が催された。その開会式に行ってきた。野田さんは東京藝大で小磯良平教室に学んでいる。全78点。そのうち、わが豊橋市美術博物館所蔵の作品が19点も出品されていた。



《俳優島原智夫ノ肖像》1968年

これは27年昔、豊橋で野田弘志展が催された時、この絵の所有者だった女性が、あまりにも克明すぎて気に入らない、として出品されなかったものだ。これらが今豊橋の美博にあるのなら、この先常設展等でまた会

はじめて拝見する絵が一つあった。初期の作《俳優島原智夫ノ肖像》(本名小島好夫)、小島さんは野田さんとは高校の同窓生、数年前にお亡くなりになったが、おお、小島さんはたしかにこんな表情をし、こういう仕草をされたものだ。ややかん高い声まで聞こえてきそう。それから《椅子の女》、

えるかと楽しみだ。

加賀乙彦作・小説『湿原』の挿画となった鉛筆画は628点ある。豊橋にはその最高の逸品ばかりがある。女優伊藤美由紀をモデルとした、ヒロイン池端和香子を描いた《和香子》、冬の川に命尽きたサケ《ホッチャレ》、空の映る北海道の水たまり《潦(にわたずみ)》等。

野田さんは徹底して写実一本。それも抒情でなく、ただ、ものがそこにあることの凄味を描く。こういう画家は日本で初めてなのだそう。その写実画の記念碑的な第一作《やませみ》が豊橋にあるのは有難くうれしいことだ。

ある若手の写実画家からこんなことを聞いた、「野田弘志という存在は、われわれにとっては傘、のようなものです。野田さんがいてくれるからこそ、われわれは安心して写実の絵に専念できるのです」と。また神戸での開会式で神戸新聞の記者が「若い人たちにこそ、この展覧会をみてもらいたい。こんな世界があるのだとびっくりしてもらいたい」と言われた。全く同感。野田さんの重要な絵を多く所蔵している豊橋の、ことに若い人たちにその絵に接して、びっくりしてもらいたい。

*『風伯』編集部では友の会の皆様の「会員の声」を募集しています。展覧会や各地の美術館をみた感想やご意見など編集部にお寄せください。

新理事紹介

はじめまして、よろしく

久曾神眞喜 (541)

私は静岡県の田舎町で育ちました。ですから東京での大学生活では目にするもの、耳にすることすべてに感動の連続でした。特に、田舎には美術館、博物館などありませんでしたから写真ではなく実際の作品を目の前にして感じることでできる美術展には休日よく出かけました。美術館も古風なものから新しいもの、それぞれの素敵な雰囲気を楽しみました。以来続く私の趣味といえるでしょう。

時代を超え光り輝く物や人の技には圧倒されます。また、私のちっぽけな感性を刺激し拡げてくれるようなアーティストの作品に出会えると嬉しくなります。そして最近、若かった頃と同じものを見て違った感じ方をすることがよくあります。

友の会一年目の昨年は、企画展で、中村正義の初期の頃の大作に驚き、見たいと思っていた武井武雄の小さな芸術的刊本などに会うことができました。古寺巡礼の旅にも参加し、個人では行かれないような素晴らしいコースを巡る機会にも恵まれました。



のんびりした私ですので、どれだけ友の会のお役に立てるか自信はありませんが、皆様といっしょに楽しませていただきたいと思います。よろしくお願いたします。

会員証更新の時期になりました



【平成28年度会員証】
平川敏夫《跨線橋の見える風景》
1951年

平成28年度には、ただいま増築中の収蔵庫および新展示室がいよいよ完成し、リニューアル記念展を開催するほか、市制110周年事業など大変盛りだくさんな1年です。また、友の会事業として、ミュージアムコンサート、土曜サロン（美術講座）、研修旅行など、皆様楽しんでいただける企画を予定していますので、ぜひご参加ください。

※以下①～③いずれかの方法で会費をお支払いください。

- ①美術博物館 …… 窓口にて会費をお支払いください
- ②郵便局 …… 同封の払込票をご利用ください（手数料無料）
- ③銀行 …… 下記口座へお振込みください（手数料有料）
三菱東京UFJ銀行 豊橋支店
口座番号：普通4806768 口座名：豊橋市美術博物館友の会

平成28年度 展覧会スケジュール

美術博物館（※ は有料企画展）

「新」収蔵品展	4.12(火)～5.22(日)
描く！マンガ展 ～名作を生む画技に迫る	4.29(祝・金)～6.5(日)
第38回 豊橋美術展	6.14(火)～6.26(日)
丸沼芸術の森所蔵「アンドリュー・ワイエス水彩・素描展」	7.16(土)～8.21(日)
市制施行110周年記念「放浪の天才画家 山下清展」	9.22(木・祝)～10.23(日)
美術博物館リニューアル記念展「NIHON画・新たな地平を求めて」	10.29(土)～12.11(日)
普門寺と国境のほとけ展	1.21(土)～2.26(日)
第66回 豊橋市民展	1.24(火)～2.5(日)
市制施行110周年記念「豊橋・ヴォルフスブルグ交流展」	2.25(土)～3.26(日)
収蔵品展「没後10年 平川敏夫」	3.7(火)～4.2(日)

二川宿本陣資料館

伊豆守が行く	7.16(土)～8.28(日)
判じ絵の世界	10.8(土)～11.27(日)
申年から酉年 干支と新春の遊び展	12.10(土)～1.15(日)



《風と木の詩》©竹宮恵子
「描く！マンガ展」より

収蔵品紹介

僧院と集落

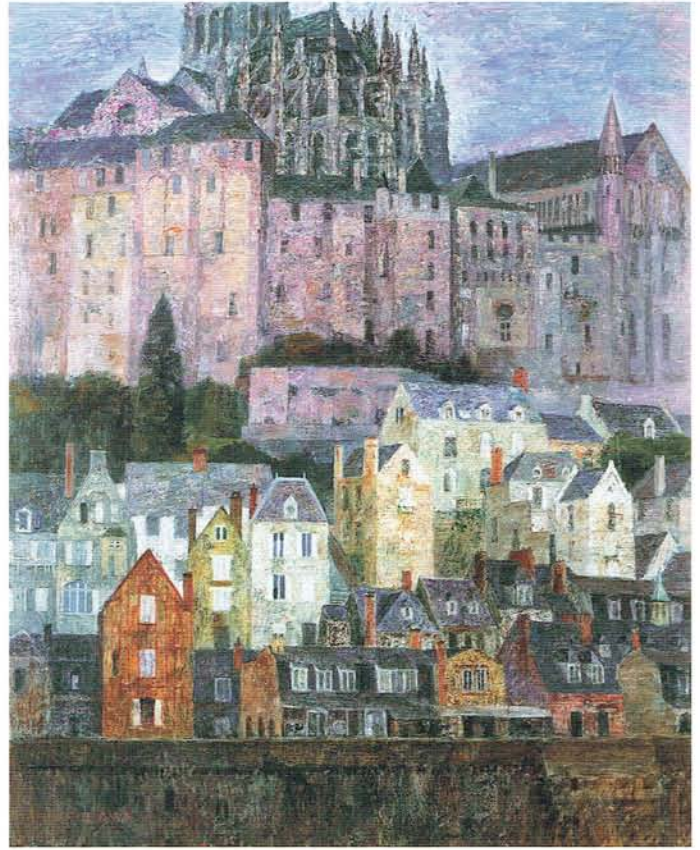
石河 彦男 ● ISHIKAWA Hikoo

1986(昭和61)年 油彩・画布 162.2×130.3cm 第72回光風会展出品

豊橋市湊町に生まれた石河は、東京美術学校図画師範科卒業後教職の道に進み、朝鮮公立群山高等女学校を皮切りに、県内中学・高校、後に名古屋芸術大学で教鞭をとりながら日展や光風会を拠点に作品発表を行った洋画家です。県内出身の作家で、石河の薫陶を受けた者も少なくありません。初期は家族など身の回りの人物・静物・働く人々・機関車など多彩な主題に取り組みますが、《工場》(1954)の頃より画面いっばいに集積する建造物を重厚なマチエールで描くようになりました。また、1966年に最初の欧州旅行に出て以来、フランス・ドイツ・オランダ・イタリア・スペインなどを歴訪し、同地での取材を元に作品を残しています。中世都市などに見られる歳月を積み重ねた街並み・建造物に関心があったようです。

《僧院と集落》も欧州への取材旅行が結実した一点。フランスのモン・サン・ミッシェルが主題です。今では観光地として名を馳せていますが、石河が描くのは喧騒を伴った賑々しい一面ではありません。たとえ画面には描き込まれていなくても、修道士たちが神に祈りを捧げる敬虔な思いや、ひたむきに暮らす人々の息づかいが伝わってくるかのようです。

石河の作品は、60年代後半から70年代初頭にかけて、明確な輪郭線を排し、街並みをひとつの塊として捉え、全体がとけあうかのようなハーモニーを奏でていましたが、次第に形態を取り戻していきます。



常設展では初期から晩年の作品を展観していますので、作風の変遷を味わってください。本作は石河の絶筆にあたります。

(豊橋市美術博物館 学芸員 細田樹里)

◆第3期常設展(3/1～4/3)にて公開

編集後記

友の会のホームページを担当し5年目を迎えます。仕事柄、商業デザインに接することはあっても、美術作品に触れる機会はあまりありませんでした。自分の中で勝手に敷居を高くし、美術館への一步をなかなか踏み出せずにいたのです。

しかし、友の会主催の美術サロンやコンサートがそんな私の思惑を見事?に裏切ってくれました。最初から難しく考えず、純粋に感じたままに楽しめばよかったです。今では各地の美術館にも自然と足が向くようになり、毎回新しい発見にドキドキワクワクしています。

ホームページにはこれまでの主催行事などもすべてアーカイブ化し掲載されていますので、ぜひ一度のぞいてみてみてください。(清水貴裕)

美術博物館友の会ホームページ

(「豊橋市美術博物館友の会」で検索)

= <http://www.museum-toyohashi.jp>

[表紙写真] ◆「模型の魅力展」にて公開中

豊橋市美術博物館 友の会だより「風伯」第94号

編集・発行 豊橋市美術博物館友の会
 会長 宮田正人
 編集長 高須博久(副会長)
 編集委員 鈴木冷子 神野志保子 河邊満江 富田真知子
 藤本逸子 清水貴裕
 協力 豊橋市美術博物館
 〒440-0801 豊橋市今橋町3-1 TEL.0532-51-2882
 平成28年3月1日発行